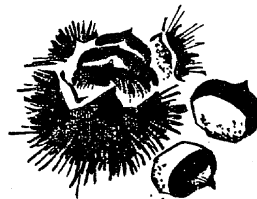


# 農業



平成29年10月号

会誌 No. 1630

## 目次

### 巻頭言

あらためてポーターの競争戦略論を思う……………八木 宏典 3

### 論壇

本当に青いキクの誕生について……………柴田 道夫 4

### 平成農業技術史研究会

第1回平成農業技術史研究会－平成農業技術（水田作）の展開－

平成農業技術史研究会の開催について…………… 6

話題提供……………寺島 一男 6

### 農事功績者座談会

稲作（水稲もち種子生産）・肉用牛繁殖の複合経営…………… 18

私の経営と農業への思い……………高橋 勘一 18

現地指導者のコメント……………山本 研 25

意見交換…………… 26

### 表彰農家訪問

養液栽培による高糖度トマト「アメーラ」

の大規模周年生産を確立……………吉岡 宏 35

－静岡県焼津市、藤枝市に高橋章夫さんを訪ねて－

## 農業・農村の現場から

- 巻き寿司だけで1億円以上を売上げる女性リーダーの魅力……中村 貴子 44  
－兵庫県多可町・マイスター工房八千代のアイデア創出－

## 世界の農業は今

- 世界の食料需給見通し……………小泉 達治 49  
－世界食料需給モデルによる2026年の予測結果－  
古橋 元  
池川真里亜

## 私の経営と志

- 自然栽培での耕作面積日本一を目指して……………首藤 元嘉 55

## 農政情報

- 大日本農会だより…………… 58

## ミニ情報

- 地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(9)…………… 43  
平成28年農作物価指数(平成22年基準)…………… 54

### 表紙写真説明

### テンサイの収穫かとうくんしかおいちょう(北海道河東郡鹿追町)

サトウダイコンとも呼ばれるテンサイは日本では北海道のみで栽培される。北海道では、広大な十勝地方や網走地方など道東の大規模畑作地帯を中心に栽培される基幹畑作物であり、およそ60,000haの作付面積があり、約350万t生産されている。北海道内には8つの製糖工場があり、テンサイからとれる砂糖は、国産のおよそ8割を占め、自給率の3割を支える大きな産業である。テンサイは昼夜温差が大きくなると、収穫物となる根に糖分が急速に蓄積されるようになるため、10月から11月にかけて収穫期をむかえる。

テンサイは、戦後に作付面積を急速に伸ばしたが、生産面積の拡大とともに収量もおよそ3倍近くに増加し、まさに20世紀の科学技術と農業技術を応用した結晶といえる。

近年は、農家人口の減少や高齢化のため、より一層の省力化や低コスト化が求められている。写真は、北海道鹿追町の大規模畑作経営を行っている農家において、直播栽培テンサイを2畦掘り収穫機により収穫作業を進めている様子である。

((国研)農研機構北海道農業研究センター 田口 和憲)